

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 1F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成30年11月17日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&ijigvsvocd=2670700349-006PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成30年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや来たにあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。平成14年12月に開所、約16年になります。職員は利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持つておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学、京都マラソン見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでます。センターの理念である、「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を大切にし、利用者様の生活のお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

観光地に近い場所でありながら閑静な地域にあり、広い敷地は周囲の緑に溶け込んでいます。京都の四季折々の行事に触れる事で、入居者と地域住民が一体となる環境にあります。開所以来16年、当初からの理念は変更されることなく、「常に入居者本位のサービスを提供する」という開所時の理念は、今でも揺るぐことなく一貫しています。ユニタリダーを中心にユニット毎の調理を調理担当職員の配任に任せるなど、各ユニットが独立したシステムをとり、それぞれの独自性を尊重しています。近隣の神社や寺院の祭事、地域の催事、事業所内でのイベント等にはボランティアを含め、現在の家族と退去された家族も参加されるなど、協力体制も構築されています。調査訪問時に入居者本人と面会に来訪された家族とに温かく受け入れていただき、日頃の安らいだ暮らしを垣間見る事ができました。更に、家族アンケートの結果から、事業所と家族の信頼関係の強さをうかがうことができました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に会社の理念とセンターの理念を唱和することで、職員間で理念の共有化と、自分たちが大切にすべきものとしての再確認を行っています。	朝礼で法人と事業所との理念を唱和し、理念の理解と意識付けを行っています。法人本部から理念の見直しの提案があった際、それまでの理念の継続を望む職員の声が多かったため、開所以来の理念を現在も継続しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会へ参加。今年は保険委員も担当しています。地域とのかかわりにより、お祭りや敬老会への案内をいただいたり、調味料を地域の酒屋さんに配達してもらったりもしています。	自治会に加入し、「保健委員」として献血の手伝いや、「嵯峨祭」の準備を手伝いました。食材は地域の店に注文し、広報誌「そよかぜ」も回覧しています。祭や敬老会への誘いを受け参加し、施設のイベントには地域住民を招き交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方に参加していただいたり、逆に地域包括が開催する地域ケア会議にセンター長や管理者が参加することで地域への発信も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、イベントや事故の発生状況、センターが取り組んでいること等、個人情報に配慮しながらセンターの情報を開示し、様々なご意見をいただく事でサービスの向上につなげています。	偶数月に開催。地域包括・自治会長・民生会長・学区社協会長の出席のもと、施設の現状や課題、取り組み等を報告しています。年2回は、家族会を兼ねての実施とし、報告と意見交換の後に協力病院の医師による「看取り研修会」を開催しました。12月には会議後に事業所の食事の試食会を予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や運営状況の報告、ケアマネ連絡会への参加、地域ケア会議への参加等を通じ、市町村担当者との関係づくりに努めています。	市の担当者に運営推進会議の議事録や事業所の広報誌を持参し、事業所の現状を報告しています。行政主催の「事業者連絡会」、「ケアマネジャー連絡会」に参加、包括主催の地域ケア会議等に出席しています。家族対応について市に相談し、助言をもらったこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を毎月実施しています。議事録を回覧、押印することで、全職員への共有化を行っています。センターでは現在、身体拘束を行っていません。言葉かけについても、適正化どうか話し合いを行っています。	「身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会」が月1回開催され状況報告や取り組みを検討しています。年2回内部研修を実施する他、外部の研修にも参加しています。研修報告書の提出、議事録の回覧等で意識を高めています。防犯上、玄関は施錠しています。また、家族からの要望であっても身体拘束をしない理由を説明し、同意を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月会議を実施したり、全体会議で研修を行う事で施設で虐待が行われる事がないよう注意をしています。また、職員への無記名のアンケートを実施したりもしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	センター長や管理者は権利擁護に関する制度について理解をしており、センターからのアドバイスにより、成年後見人制度を活用されたご利用者様もおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際には、契約書、重要事項説明書を準備し、十分な時間をかけ、説明し、ご理解、ご了承をいただいた上で、署名捺印をいただいています。また、変更がある場合には、別紙にて説明を行い、改めて署名捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会の実施をしています。また、アンケートも行っており、家族の意見を運営に反映できるよう努めています。また、日頃より、家族様が面会に来られた際には、声をかけ、意見をお聞きしやすいようにしています。	年に1回「家族アンケート」を実施、来訪時にも意見を聞き、「申し送りノート」に記載して家族会で報告しています。入居者の食事についての質問があり、食事の内容と食事風景を写真に撮り、広報誌に載せるようにしました。面会に来られない家族には定期的に電話をかけ、入居者の様子を伝えると共に、要望を聞いています。	家族は面会時の様子しか見ることはできません。それ以外の日常生活場面や、談話風景などをこまめに写して、広報誌にその写真を載せて発信されてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議の実施、職員の評価時に面談を行っています。また、センター長は事務所に席をもうけており、いつでも意見や提案をできる体制を整えています。	管理者は日常的にユニットリーダーから意見を聞き、毎月の全体会議やフロア会議にも出席し、職員の意見を聞いています。出た意見により、夜勤体制の見直しやシフトの改善などを行いました。人事考課のための個別面談時にも意見や提案を聞き取り、風通しがよくなったという意見もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長は就業の前後に各ユニットに必ず挨拶にまわり、職員に声掛けを行っており、日頃の様子を把握し、職場環境がより良くなるよう行動をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の際に、毎月課題をきめ、研修や勉強会をしています。また、法人実施や法人外実施の研修の案内を回覧し、スキルアップをする機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域ケア会議、懇親会など色々な場において同業者の方と接し、話をお聞きする機会があります。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を行い、どのような思いを持っておられるか、どのような点で困っておられるかなどをできる限り把握し、センターについても知っていただく事で信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問い合わせや見学、面談の機会を通じ、家族様やケアマネ、現在使っておられるサービスの担当者より話をおききし、家族の要望をおききするとともに、センターができること、出来ない事についても話し、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ、見学、面談、各所よりの話を通じ、どのようなサービスを利用することが、一番良いかを検討し、場合によっては、他のサービスの利用を提案した場合があります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の能力の把握に努めており、利用者様が出来ない部分を補う形で援助を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の様子について、家族様がこられた際や、センター発行の新聞等でお知らせし、イベントの手伝いや散歩、受診等、家族様にも協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪問して下さった際には、ゆっくりお話できるよう配慮し、また、気軽に訪れていただけるようにしています。馴染みの場所とのつながりを保つ支援については、今年十分に出来なかった。	友人に電話をかける手伝いや、馴染みの人にイベントの案内を送る支援をしています。敬老交流会には入居者の中で地域の方を優先的に誘っています。仏壇のある居室にお寺さんが来られたこともあります。近々、ボランティアの方が生徒役になり、元先生の入居者の書道教室を開催する予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係性を良くしており、仲の良いご利用者様同士が楽しく過ごせるよう、座席を工夫したり、職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いをしたり、支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族会に参加して下さったり、運動会イベントのお手伝いをかってでて下さるご家族様もおられます。また、退去された利用者様のお見舞いに行くなど、入居によりできた関係を大切にしています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用前には、ご本人と必ず面談を行い、どのような思いをもっておられるか把握に努めています。また、入居後も日頃の様子や関わりの中より、各利用者様の思いや意向の把握に努めケアプランに盛り込んでいます。	入居後1・3・6ヶ月ごとにアセスメントを行っています。生活の中で、いつもと違う言動などから気付いたことを「申し送りノート」に記入し、職員で共有しています。発語が困難な方との日頃の関わりの中で、表情や眉のかすかな変化から想いの把握ができるようになり、ケアプランに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族、ケアマネ、ご利用しておられるサービス関係者等よりお話を聞き、各情報の収集を行っています。新たに得た情報については、申し送りノートに記載し、共有化も行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態について、日々様子を記録しており、大きな変化があった場合には家族にも連絡をうなど、現状の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、現状を分析。医師の往診の結果や家族様の要望、ご本人の様子等を踏まえ、新しい介護計画を作成を行っています。	入居後1ヶ月、短期目標3ヶ月、長くても6ヶ月ごとにモニタリングを行っています。状態変化の都度、医療関係者や家族の意見を踏まえ、カンファレンスを行い介護計画の見直しを行っています。現状に即したケアを心掛けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センターでは、「介護支援経過記録」という書式で利用者様の日頃の様子やケアの結果を記録しており、介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自立支援の取り組みをおこなったり、病院や家族様との話し合いを通じ、ターミナルケアを行うなど、多様なニーズに対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会を通じ、敬老交流会にお誘いいただいたり、近隣の寺院のお祭りを見学したりと、地域との関わりの中、利用者様が生活を楽しむことができるようになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の要望により、センターの協力病院をかかりつけ医にされる方や、いままでのかかりつけ医をセンター入居後も継続しておられる利用者様もおられます。	入居時にかかりつけ医と協力医の説明を行っています。協力医は24時間体制であることから、全員が協力医を利用されています。協力病院は3箇所あり、選択できます。家族の協力のもとでかかりつけ専門医の継続受診も支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センターに看護職はいませんが、訪問看護と契約しており、毎週土曜日に訪問を受けています。また、利用者様に変化がある場合には、24時間報告や相談を出来る体制を病院、訪看で整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や、入院時に必要な情報を医師に伝えられるよう、個人ファイルを準備しています。入院された際には、お見舞いや、担当部署への問い合わせを行い、状態の把握に努め、早期退院にむけた対応を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会での勉強会や医師、センター、家族様とカンファレンスを通じ、センターで出来ること、家族様の要望等を話し合い、本人や家族様の希望する終末期の対応に近づけることが出来るよう、支援を行っています。	24時間対応の病院・訪問看護とは、家族を交え連携体制を整えています。本人と家族の意思を優先し、その都度方針を確認、共有しています。研修会では看取りを経験した職員からの報告を組み込み、全職員の対応力が高まるよう努めています。家族に向けた看取りの勉強会を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や対応を記載したマニュアルを作っています。もしもの時に全ての職員が対応できる実践力を身につけているとまではいえませんが、連絡や連携をとりながら適切な対応が出来る体制作りできています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防火訓練を行っていますが、全ての職員が十分な対応が出来るとまではいえない。	昼間・夜間の火災、災害想定での3回の避難訓練を消防署の協力のもと実施しています。訓練に参加できなかった職員には防災マニュアルを回覧し、周知に努めています。訓練で明らかになった課題を検討し、常に見直しを行っています。備蓄品も2～3日分確保しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉かけや対応が出来るよう、全体会議の研修で接遇について学んだり、毎月の身体拘束廃止・虐待防止委員会で話し合いをしたりしています。職員間で相互に注意しあったりもしています。	月1回の接遇研修を行っています。「新人用マニュアル」が策定されているほか、入職3年未満の職員には法人研修が義務付けられています。日頃の職員の不適切な言動があればフロアミーティングで話し合い、啓発と防止に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身体が硬くなっておられ、移動は職員介助なのですが、お部屋で、机に向かい、職員に用事があるときには、コールを鳴らし、「〇〇するので〇〇して」と、ご自分のペースで過ごされているご利用者もおられます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際に良く休まれている場合には、時間をずらし食べていただくなど、集団生活の中でも、利用者様のペースを尊重しながら援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マイシャンプーや化粧品を使っておられる方や、トレードマークの帽子を常にかぶっておられる方など、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しまれています。ご自分で出来ない方については、職員が髪を結ったり、援助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者様の好みを把握しており、お出しする飲み物をその人毎に変えたり、カレーがお好きでない方には、別のおかずを用意したりと食事を楽しむことが出来るよう援助を行っています。重度のご利用者様が、一緒に料理作りをするというのが難しくなっているのが現状です。	入居者の嗜好を把握し、ユニット毎に要望に沿った家庭的な料理を心掛け、一人ひとりに合った調理形態で提供しています。配膳や盛り付けの出来る方には手伝ってもらっています。イベント食や寿司の出前、敷地内の農園で獲れた食材の利用も楽しみの一つになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日量を記録しており、医師の指示にも対応できる形で一人一人に合わせた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口腔内の衛生が保てるよう、口腔ケアや歯磨きの声かけ等を行っています。月に2回は必要に応じ、歯科往診も受けられる体制を整えています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分量や食事、排泄パターンを記録していく事により、個人のリズムの把握に努めており、適切なタイミングでの誘導や薬にばかり頼らない排便など自立に向けた支援に取り組んでいます。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛けや誘導を行っています。排便コントロールについては、水分摂取や食材にも留意し、薬に依存しない排泄の自立をケアプランに入れています。居室での放尿がなくなったり、紙パンツから綿パンツに改善した事例等を各フロアで共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便となるよう、食事内容や水分量等配慮するとともに、必要な方には医師の指示の元、下剤の調整も行い、便秘の対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間については、日中になります。が、ゆっくり入れるよう十分な時間を設けています。気分により、今日は入りたくないという方には別日程で入っていただくなど、利用者様の思いも尊重しています。	週2回、午後に行っています。入浴を拒否された時は入居前の生活歴やパターンを尊重し、臨機応変に対応しています。右麻痺の方、左麻痺の方用に手摺りをつけた二つの浴槽を備えています。浴槽に入れられない方へはシャワー浴で対応するなど、個々に浴った支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者様の生活リズムや様子を把握しており、利用者様の生活習慣を尊重し、眠る時間や起きられる時間、照明の明るさなど好みに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、薬の量や用途、注意点等、確認しやすいように工夫したり、薬剤師よりの注意事項を申し送りノートに記載し回覧するなど、適切な服薬支援が出来るよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者様のお好きな事や得意な事についてある程度把握しており、その能力を発揮し、やりがいや楽しみを感じていただけるよう、支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外出される準備をセンターの職員が行ったり、外出しやすいよう支援行っていますが、その日の希望で外出をしたりはなかなか出来ていません。	身体機能の低下により日常的に外出ができる方は少なくなっていますが、施設外周の散歩などに出かけるよう努めています。墓参りや、かかりつけ医の受診の機会を利用して、家族との食事や買物を楽しめるよう支援しています。	イベント時の外出はありますが、日常的な外出の機会は少ないようです。施設の敷地が広く緑に囲まれた環境の中、玄関先での外気浴を実施したり、敷地内菜園にゆずやみかんなどを収穫しに出かけられてはいいかでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は、外出時や、センターのイベントでお金を使う場面を設けたりしていましたが、現在は、そういった機会が少なくなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をしたり、手紙を出されている方もあります。職員は電話番号を押したり、ハガキを用意したり、必要な援助を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が瓦や格子戸、障子など落ち着いた和風の雰囲気を感じるように建てられています。照明もLEDを導入し、明るすぎないよう調整されています。周囲は緑で囲まれており、リビングや利用者様居室の窓からも、季節の様子を感じる事ができます。	リビングの大きい窓からの景観も良く、開放感があります。廊下の一角に本棚とソファを置き、サロン風の憩いの場にしています。居室入り口左側の壁にその部屋の方の作品を展示する事で、自分の部屋を認識できるよう工夫しています。ユニット対抗で評価がつけられるイベントがあり、その共同作品が廊下に飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を食べる席だけでなく、ソファや椅子、各階のエレベーターホールや玄関前にも席を設けており、一息つける場所作りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明時に、お部屋には利用者様が使い慣れた家具を準備していただけるようお伝えしており、自分の部屋としてリラックスして過ごせるよう工夫をしています。	南向きで明るく、広い居室です。年2回、クローゼットの整理を家族に依頼しています。すっきりした部屋に馴染みの家具や仏壇を置いたり、記念品や家族からのプレゼントを飾ったりするなど、家庭生活の雰囲気作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はGH専用に建設されており、段差はなく、手すりも各所に設置されており、利用者様が安全に使いやすいよう配慮されています。トイレの案内や、お部屋には表札もあり、利用者様が過ごしやすいよう工夫もしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 2F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや来たにあがった、自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと穏やかに過ごせるよう、その人の持っておられる能力を考慮し、手助けを必要とする部分を支援することを心がけています。また、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭の見学といった季節にあったイベントから、定期開催のバイオリン演奏会やハーモニカ・ウクレレコンサート、音楽療法といった数々のイベントがセンターで過ごされる利用者様の日常生活に楽しみをプラスしており、職員も共に楽しんでます。センターの理念である、「穏やかで安らぎのある暮らし、心遣いや気配りのある生活、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念を大切にし、利用者様の生活のお手伝いをしていきたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?act=info_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&ijigovoyCd=2670700349-006&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階と同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成30年12月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、センターの理念を唱和することで、理念の確認と意識の共有化を行っています。穏やかに過ごせるようどう援助をしていくかという援助の基本にしています。	1階と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域とのつながりを持つことで、地域の敬老会やお祭りなどのイベントにもお誘いをいただいています。また、センター発行の新聞を回覧し、センターを知っていただく取り組みも行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヵ月に一度開催し、地域の方にも参加していただいています。地域包括の開催する地域ケア会議にも参加し、地域の高齢者支援への協力を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告用のフォーマットを作っており、外部評価や家族アンケートの結果報告、イベント・事故の報告等きっちり行っています。その中で様々な意見をいただくことで、サービスの向上につなげています。また、家族様への報告も行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へ、定期的に報告を行っている。地域ケア会議、区のケアマネ連絡会やサービス事業者連絡会等、地域の会合に積極的に参加し協力関係の構築に日々努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を毎月実施。日頃、支援をしていく中で、知らないうちに身体拘束・虐待を行っていないか話し合いをしている。またスピーチロックに関しても、重点に話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止会議を行い、議事録の配布をしています。また、虐待等に関連するニュース・事例があれば、回覧を配布を行い、虐待に対する意識や知識を、常に持ってもらう環境作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてある程度理解している職員もいますが、成年後見制度の勉強会は、事業所では現在開催されておらず、理解が十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の場合には、利用者様や家族様にお時間をいただき、説明を行っています。その上でご理解、了承のうえ、同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回、家族会を実施しています。またアンケートも実施し、家族様の意向をお聞きできるようにしています。面会の時に、意見や要望を直接お聞きできる機会も設け、お聞きした事は申し送りノートに記載し職員で共有し、反映できるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、フロアミーティングと全体会議があり、その場にセンター長、管理者が参加し、運営の報告や意見交換を行う時間としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はセンター長・管理者を含め二十数名であり、各職員の実績、勤務状況などに把握することができています。その上で定期的に面談を行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の研修を受ける機会を設けられています。全体会議でもテーマを決め、研修を行いスキルアップにつなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修に行くなど、相互交流を持つ機会ができています。勉強会や事例検討等、サービスの質の向上にむけた取り組み出来ています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、どのようなサービスを希望されているか家族様含めお聞きし、施設が提供できるサービスについても説明し、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせなど、サービス利用を考えておられる時点から、十分な説明や要望の確認を行い、信頼関係のある程度築いた上でサービスを開始できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと相談したり、家族様、本人と面談を行い、今どのようなサービスを利用される事が良いのかを本人の現状を把握したうえで支援をおこなっています。場合により、他のサービス利用をお勧めする事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行った上でご利用者の必要とする部分について、職員は支援を行うようにしています。その中で、また新たに新しい発見を、気付かせて、教えていただくこともあるのでその際は、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現状について、家族様に連絡を行い、可能な範囲で家族様のご協力をいただいています。日頃の生活を見ていただける機会としてイベントなどにもお誘いし、共に支えあえる時間を共有できるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やご友人の方が面会に来て下さった際には、利用者様と一緒に気持ち良く過ごして頂けるよう配慮を行い、また来て下さりやすいよう雰囲気作りをおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、関係に支障がある場合には、職員が間に入る等配慮しながら利用者様が、円滑に共同生活がおくれるよう援助をおこなっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて相談や支援ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者様、家族様の希望や意向の把握に努めています。得られた情報については、申し送りノート等で職員間で共有、意見交換を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人様、ケアマネ等連絡をとり、サービスの利用前より情報の取得に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の生活ペースを理解し、把握して職員ペースにならないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活のご様子から、モニタリングを行い、職員と共有している。また、その中で必要に応じて家族様にもカンファレンスに参加していただいて、話し合いを行い、それを反映させて介護計画の作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は各種記録や申し送りノートを活用し、情報の共有を行っています。利用者様に大きな変化があれば、随時援助内容の見直しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携病院、訪問看護ステーションや鍼灸マッサージ、イベントボランティアなど、施設が提供するサービスだけでなく、他のサービスも本人や家族様の希望に応じ連携をとり、利用者の生活の質の向上につなげています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察、地域包括、ご近所の皆さん、ボランティアの皆さんなど様々な方に協力いただきながら、利用者様が穏やかな暮らしを過ごせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が提携している病院で、医療支援を受けられます。また、今までのかかりつけ医を希望される方がおられましたら、入居後も継続して診察はできるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の他に、訪問看護ステーションの看護職とも連携がとれており、24時間相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今までの医療の経過が蓄積されており、本人様、家族様の要望を理解した、医療がうけられるようになっていきます。職員がお見舞いに行き、経過の把握に努め早期退院にむけた取り組みも行うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、家族様に説明し、同意書をいただいています。また、状況変化時はご家族様の意向を再度確認し、医師との連携を取りながら、終末期についての話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、緊急対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行っています。また、食品としては備蓄品を倉庫に保管をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、接しています。適切な声かけが、できるように研修なども行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話や行動、表情などから思いをくみ取り、自己決定を導きだせる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞く、推し量る、表情から読み取る等して希望に添えるよう支援している。外出など、希望に添えていない部分もあるので、より良くしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでいただく機会や、選べない方は職員が、その方にあった服を、コーディネートするなどの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度のご利用者様が増え、一緒に料理作りをするというのが難しくなっているのが現状です。食事を楽しんでいただく観点として、色彩や匂い、その時に召し上がられたい物や、季節感がある物など考慮し献立を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の判断に基づき、各人にあわせ水分量、栄養バランス等注意し食事を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前には口腔内清掃を行っている。月に2回、歯科往診も受けながら口腔内の点検、清潔保持を行っています。毎食後の口腔内清掃はできていないことが多い。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間記録することで一人ひとりの傾向を把握し、個々に合わせた排泄ケアを行っています。適切に誘導や交換をすることで、おむつの使用を減らすとともに不快な時間の削減、清潔な状態の維持につなげています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録行っており、便秘傾向のある方には水分量、牛乳やヨーグルト、繊維質など、自然排便をうながす取組をおこなっています。必要に応じ、下剤の使用も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は、午後からの入浴になっています。その中でも、ゆっくり入浴されたい方など、時間帯を考慮して、リラックスして楽しんでいただける時間を提供させていただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを把握しており、その時々利用者様の様子や表情も考慮し、安心して休んでいただけるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より、個々に服用している薬の説明を受けとっており、薬の目的や用法等、概ね理解できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好について把握しており、各利用者が日常生活を楽しんだり、活躍できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は、重度化により難しくなっている現状がありますが、花見、祇園祭見学や紅葉など季節折々の際には利用者様に楽しんで満足していただけるようドライブや散歩などの外出行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて金銭を所持していただく事は可能ですが、実際に使っていただく場面は少ない。外出の際に小遣いを、もっていってもらうなど今後工夫をしたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の能力に応じて電話や手紙を出したりする事を職員も支援を行っています。届いた手紙に返信される方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子や格子戸など、館内は和風のゆったりした雰囲気となっています。壁には季節の飾りやご利用者様のイベント写真などもはり、利用者様が落ち着いて過ごしていただけるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを効率的に配置しており、少人数で仲の良い方とゆっくりしたり、また、テーブルを動かせば大人数でイベントを行う事もできるよう、工夫されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の際より、施設の部屋は利用者様の自室である事を伝え、出来るだけ使い慣れた馴染みのある家具を持ち、雰囲気作りをしてくださるよう、お願いしており、職員も安全に配慮の上、お手伝いをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が分かりやすいよう、表札やトイレの案内をつけています。また、手すりも各所に設置し、利用者様が持っておられる力を使い、生活しやすいようしてあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	株式会社ユニマツ・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	嵯峨野ヶアセンターそよ風 3F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	平成30年11月11日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyouvoCd=2670700349-006PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成30年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山からやや北にあがった自然に囲まれた風情のある静かな地域に位置しています。利用者様がゆっくりと、楽しく過ごせるよう、自分らしさが出せるように支援することを心がけています。また、五山の送り火鑑賞会、嵯峨祭見学等、季節にあったイベントがあり、利用者様、職員が笑顔で一緒に楽しんでいます。16年の運営実績があり安定した経営ができています。利用者様と一緒に「穏やかで安らぎのある暮らし、ゆったりと自由な時間、地域と生きる私たち」という理念をこれからも大切にしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて、会社の理念と事業所の理念を唱和し、共有している。	1階と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては地域の役割を担っており交流がある。利用者様は地域のイベントに参加することがあるが年に数回と限られている。日常的に交流を持てるセンターになるよう、運営推進会議や回覧板での呼び掛けをして取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症ケアの実践例など紹介している。さらに広く地域の方々に理解してもらえよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況等報告をする他、施設の抱えている課題を相談できる場ともなっており、実際にアドバイスを頂き実践に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告書を直接届けたり、ケアマネ連絡会に参加したりして、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を目的とした行為はしていない。玄関は防犯上オートロックとしている。ユニットの入り口に手動の鍵を掛けることがあるが、その時間を少なくできるように毎月会議にて話し合いを続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度全体会議の場で研修を行っている。職員がお互いに声を掛け合っているため虐待に繋がるケアを未然に防げていると思う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度全体会議の場で研修を行っているが、支援できる(ご家族に案内できる)レベルには至っていないので今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に面談をし、不安や疑問点なども伺い説明をさせて頂き、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時のご意見を職員・管理者で共有し、運営に反映させている。また、家族アンケートの機会を増やし内容を工夫することで意見が表しやすくなるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やフロア会議、日々の仕事の話の中でも、よく意見交換がなされており、職員は「聞いてもらえている」と感じている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員補充など職場環境の整備に向けてセンター長・管理者は努力していると多くの職員は思っている。会社としてはリフレッシュ休暇を導入し、より良い環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自で全体会議の場で研修を行っている。他、ユニット内でチームとして新人を育てていく環境を整えたり、外部の研修にも参加できるよう案内している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社としての交流会・研修会への参加は限られた職員となっているが、他施設への研修参加等促すことで全職員に同業者との交流の機会が与えられるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調面談にてご本人とお会いし、思いに耳を傾けている。入居後も初期の情報ノートを作り、ご本人のお話や表情を見て察したこと気付いたことを共有し、安心につながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実調面談を行い、要望等を伺いお応えできるようにしている。入居後も要望等は常に聞きだすようにしている。言葉で頂かなくても、どう思っておられるか、何か不安なことはないか、察するようにして、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討された経緯、何が一番困っているのか、何が一番不安なのか、等を聞き取り、最善の支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事をしたり、一緒にお茶を頂いたり会話したりしながら、一日を過ごして頂いている。できることはして頂いて、できるだけ自分で決められるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事であってもご本人の様子や変化をお伝えし、認知症についての助言もしている。ご家族それぞれの気持ちと利用者様の気持ちの両方に添った支援の仕方を考え話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙やお届け物などがあつた際にはお礼の電話で直接お話できるよう支援したり、親しくされている方、よく来訪くださる方にはイベント等のお知らせを送付し、できるだけ多くの楽しい時間を一緒に過ごしてもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様同士の会話によく耳を傾け、関係 を把握し、個々の性格を見極め、職員で意 見を共有し、利用者様それぞれが本人らし さが出せるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやりとり等、関係が続いているご家 族もいる。また、退居後入院されている方 のお見舞いに伺い、ご家族とお話する機会も ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	常に把握に努めている。ご自身で思いを表 すことが困難な場合が少なくないが、利用者 様の様子や発せられた言葉などを記録に残 し、カンファレンスで本人本位の視点から職 員で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前・入居後ともに、ご本人やご家族や以 前の施設から情報収集をし、また、入居後 のご本人の様子からも、どのような暮らし方 なのか読み取るようにすることで把握に努 めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の一人ひとりの様子を、申し送りノート や個別の経過記録へ記載したり、口頭で申 し送ったりすることで職員全員が把握でき るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、職員でカンファ レンスを行い、ご本人のしたい事は何か、その 為に何を支援すべきか、話し合っている。家 族様にもカンファレンスに参加して頂いたり して、意向を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応を記録し申し送り、情報 共有している。職員は、気づきがあった時に その場の職員同士話し合いケアの工夫をし ており、その方にとってのよりよいケアの実 践と見直しを日々行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の業務フロー・ケアプランは決まっているがその日によって利用者様の状態が異なることも多いので臨機応変に対応している。職員一人一人がその場で判断できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントへの参加、地域の他施設の利用、地域の店で買い物など、地域で楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院と連携し、受診できる環境を整えている。かかりつけ医を希望されている方は受診を継続できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の医師・看護師や訪問看護(週1回)の看護師に随時相談し、指示を頂き対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族と連絡を取り情報交換を行っている。また退院後も病院側からサマリーを頂き、退院後の生活に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や早い段階からご家族に終末期について考えて頂くよう促したり話し合いの場を設けたりしている。その際には家族様の希望と施設でできることをお互い理解し協力できるよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度全体会議の場で研修を行っている。緊急時や事故発生時の連絡網はできているが応急手当などの実践力はまだ身につけていない。訓練や勉強の場を増やしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っているが、全職員が方法を身につけるまでは至っていない。訓練には消防署の方にも来て頂く回もあり、協力体制は築けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との距離が近くなりすぎないように、言葉が崩れないよう、気をつけている。朝礼や会議の場で啓発を行い職員が意識を高められるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方その方に応じて、決めていただく、選んでいただく、こちらが察知する、などして支援している。その方の表情などをよく観察して思いに添えているのか考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞く、推し量る、表情から読み取る等して希望に添えるよう支援している。外出など、希望に添えていない部分もあるので、より良くしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び、化粧をしていただいたり、できなくなっても整髪など職員がさせて頂き鏡を見ていただくことで微笑んでくださることもある。月に一回訪問美容にて、ご本人のご希望に応じ、パーマ、カット、毛染めなどして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや体調に合わせて提供方法を工夫している。品数や彩りを考えた食事、季節の物を取り入れた食事を提供している。できる方には盛付や配膳、片付けなどほぼ毎日して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのその日の状態に合わせて、量を加減したり、脂肪分の調節などしている。また食べやすく、飲みやすくなるよう、好みや形態を考慮している。記録に残して管理もを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と夕食後は全員行って頂けるように支援している。日中は口腔内に食べ物が溜まりやすい方などはその時々に応じて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて排泄リズムを把握していることで、その方その方のタイミングでトイレリードトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事(便秘の方にはヨーグルト・牛乳・納豆・繊維食材を積極的に摂って頂いている)や運動にて対応、次いで主治医に相談し内服での対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、週に半分程の入浴日。時間帯は午後設定させて頂いているが、その中ではお好きな時間、お好きな湯温でくつろいで頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で入床・起床できる方についてはご本人の意思に合わせている。ご自分で表現できない方については表情や歩き方等からのサインを読み取り、お疲れの時は休んで頂くなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を読み目的や副作用、用法や用量などについてよく認識するよう努めている。服薬時は十分な注意を払い、間違えないよう、日付や利用者様名を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様が、どのように生きてきた方なのか、どのように暮らしたいのかを考え、職員で話し合い、そよ風での生活が自分らしく感じて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外周の散歩はしているが、長い外出はこちらの都合がつく時に限られている。ご家族とも協力し希望に添った外出支援を行っていききたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しており、ご本人がお金を持つ機会は施設のイベントや近所のお祭や個別レクなどで買い物する時に限られている。その際はご自分で買い物ができるよう支援しているが、そのような機会を増やしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やりとりをされる際には電話の隣で見守りしたり年賀状の返事を書かれたりする際の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や散歩に出た際に摘んできた草花などをテーブルに飾ったり、各居室の表札にも月替わりで四季折々の絵を飾る等、皆様が安心して暮らして頂けるよう季節感を取り入れて工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、皆様思い思いの場所でくつろいでおられる。必要な場合は、職員がフォローに入り、一人ひとりの居場所づくりの支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品などご本人が時々見ておられ楽しめる物が多く置かれている居室もある。馴染みの家具などを持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日の日付、今月の行事予定、場所の案内などを表示することでご自分で日付などを確認できる支援ができています。館内はバリアフリーで、安全に自立支援ができるよう必要に応じて手すりの増設も行っている。		